

がいようばん
概要版

詳しく知りたい方向けの詳細版もあります。

小学校6年 ~ **高校1年^{相当}** の女の子と
保護者の方へ大切なお知らせ



HPVワクチンについて知ってください
～あなたと関係のある“がん”があります～

ウイルス感染でおこる子宮けいがん

詳細版
P2~3

「がんってたばこでなるんでしょ？」

「オトナがなるものだから私は関係ない」って思っていないですか？

実はウイルスの感染がきっかけでおこる“がん”もあります。その1つが子宮けいがんです。

HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因と考えられています。

このウイルスは、女性の多くが“一生に一度は感染する”といわれるウイルスです※。

感染しても、ほとんどの人ではウイルスが自然に消えますが、

一部の人でがんになってしまうことがあります。

現在、感染した後にどのような人ががんになるのかわかっていないため、

感染を防ぐことががんにならないための手段です。

※HPVは一度でも性的接触^{せっしよく}の経験があればだれでも感染する可能性があります。



女性の多くがHPV(ヒトパピローマウイルス)に
“一生に一度は感染する”といわれる

がんになる場合も

感染を防ぐことが
がんにならないための手段

<何人くらいが子宮けいがんになるの？>

日本では毎年、約1万人の女性が子宮けいがんになり、毎年、約3,000人の女性が亡くなっています。
患者^{かんじゃ}さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがん^{がん}の治療^{ちりょう}で子宮を失ってしまう(妊娠^{にんしん}できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。

<一生のうち子宮けいがんになる人>

1万人あたり125人

2クラスに1人くらい

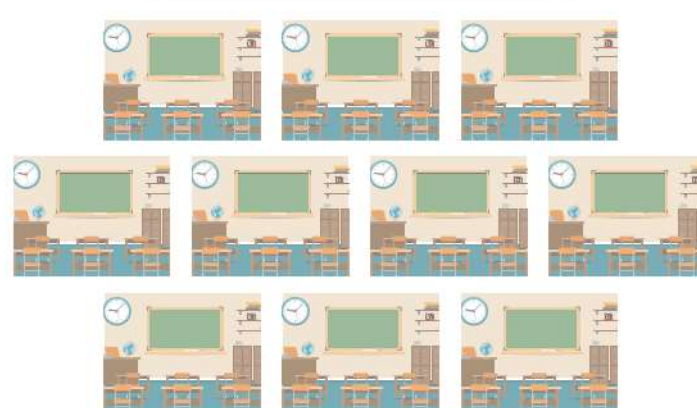


1クラス約35人の女子クラスとして換算^{かんさん}

<子宮けいがん^{けいがん}で亡くなる人>

1万人あたり34人

10クラスに1人くらい



HPVワクチンの効果

詳細版
P4

HPVの中には子宮けいがんをおこしやすい種類(型)のものが 있습니다。

HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。

現在日本において受けられるワクチンは、防ぐことができるHPVの種類によって、

2価ワクチン(サーバリックス®)、4価ワクチン(ガーダシル®)、

9価ワクチン(シルガード®9)*の3種類あります。*2023年4月から、シルガード®9も公費で受けられるようになりました。

サーバリックス®およびガーダシル®は、子宮けいがんをおこしやすい種類である

HPV16型と18型の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮けいがんの原因の50~70%を防ぎます※1。

シルガード®9は、HPV16型と18型に加え、ほかの5種類※2のHPVの感染も防ぐため、子宮けいがんの原因の80~90%を防ぎます※3。

また、HPVワクチンで、がんになる手前の状態(前がん病変)が減るとともに、

がんそのものを予防する効果があることもわかってきています。

※1・3 HPV16型と18型が子宮けいがんの原因の50~70%を占め(※1)、HPV31型、33型、45型、52型、58型まで含めると、子宮けいがんの原因の80~90%を占めます(※3)。

※2 HPV31型、33型、45型、52型、58型

HPVワクチンのリスク

詳細版
P5

筋肉注射という方法で注射します。接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状^{しょうじょう}が起こることがあります。

ワクチンの接種を受けた後に、まれですが、重い症状^{おもいしょうじょう}※1が起こることがあります。

また、広い範囲^{はんい}の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動^{ふずいいうんどう}※2といった多様な症状が報告されています。

ワクチンが原因となったものかどうかわからないものをふくめて、

接種後に重篤^{じゅうとく}な症状※3として報告があったのは、ワクチンを受けた1万人あたり約2~5人※4です。

接種するワクチンや年齢によって、合計2回または3回接種しますが、

接種した際に気になる症状が現れたら、それ以降の接種をやめることができます。

接種後に気になる症状が出たときは、まずはお医者さんや周りの大人に相談してください※5。

※1 重いアレルギー症状(呼吸困難やじんましんなど)や神経系の症状(手足の力が入りにくい、頭痛^{おうち}・嘔吐・意識の低下)

※2 動かそうと思っていないのに体の一部勝手に動いてしまうこと

※3 重篤な症状には、入院相当以上の症状などがふくまれています。報告した医師や企業^{きぎょう}の判断によるため、必ずしも重篤でないものも重篤として報告されることがあります。

※4 サーバリックス®およびガーダシル®は約5人、シルガード®9は約2人

※5 HPVワクチン接種後に生じた症状の診療を行う協力医療機関^{いりょう}をお住まいの都道府県ごとに設置しています。

子宮けいがんで苦しまないために、できることが2つあります

詳細版
P7

① 今からできること

日本では、小学校6年~高校1年相当の女の子を対象に、
子宮けいがんの原因となるHPVの感染を防ぐ

ワクチンの接種を提供しています。

HPVの感染を防ぐことで、
将来の子宮けいがんを予防できると
期待されています。

カナダ、オーストラリアなどでは
女の子の8割以上がワクチンを受けています。



② 20歳^{さい}になったらできること

HPVワクチンを

受けていても、

子宮けいがん検診^{けんしん}は
必要です。

定期的に
検診を受けることが
大切です。



HPVワクチンについて知ってください

すべてのワクチンの接種には、効果とリスクとがあります。

まずは、子宮けいがん^{けん しん}とHPVワクチン、子宮けいがん検診^{けん しん}について知ってください。

周りの人とお話ししてみたり、かかりつけ医などに相談することもできます。



HPVワクチンを受けることを希望する場合は

詳細版
P4,8

小学校6年～高校1年相当の女の子は、HPVワクチンを公費で受けられます※。

病院や診療所で相談し、どれか1種類を接種します。ワクチンの種類や接種する年齢によって、

接種の回数や間隔が少し異なりますが、いずれのワクチンも、半年～1年の間に決められた回数、接種します。

接種には、保護者の方の同意が必要です。

※公費の補助がない場合の接種費用は、サーバリックス®およびガーダシル®では3回接種で4～5万円、シルガード®9では3回接種で8～10万円、2回接種で5～7万円です。

一般的な接種スケジュール

シルガード®9

1回目の接種を
15歳になるまでに
受ける場合

0か月

1回目

6か月

2回目^{※1}

合計
2回

1回目の接種を
15歳になってから
受ける場合

0か月

1回目

2か月^{※2}

2回目

6か月

3回目^{※3}

合計
3回

ガーダ シル®

0か月

1回目

2か月^{※2}

2回目

6か月

3回目^{※3}

サーバ リックス®

0か月

1回目

1か月^{※4}

2回目

6か月

3回目^{※5}

3種類いずれも、1年以内に接種を終えることが望ましいとされています。

※1 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2・3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。

※4・5 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※4)、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月半以上(※5)あけます。

HPVワクチンについて、もっと詳しく知りたい方は

このご案内の内容をもっと詳しく説明している

「HPVワクチンについて知ってください＜詳細版＞」や、

その他のご案内をご覧ください。

厚労省 HPV



HPVワクチンに関するよくあるご質問(Q&A)については、こちらをご確認ください。



お問合せ先

登別市保健福祉部健康推進グループ

TEL:0143-85-0100

FAX:0143-85-0111

E-Mail:shintata21@city.noboribetsu.lg.jp